

平成23年度

第4回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成23年11月16日（水）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

平成23年度 第4回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成23年11月16日（水） 午前9時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

○ 出席委員（五十音順）

阿部和博、五十嵐吉右衛門、五十嵐寅吉、五十嵐松治、後藤輝夫、今野毅、
佐藤正廣、荘司正明、高山利幸、竹内峰子、茅野進、早坂剛、本間孝夫、山田登

○ 欠席委員（五十音順）

稲泉眞彦、今野利克、齋藤春子、早坂裕子、本間昭志、三浦惇

○ 市側出席職員

企画部長 秋野友樹、企画調整課長 高坂信司、企画調整課主査 佐藤豊
企画調整課企画専門員 伊藤弘治、地域活性化推進室長 吉住光正、
地域活性化推進室係長 三浦裕美、地域活性化推進室主任 飯野剛

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について
 - (2) 鶴岡市国土利用計画について
 - (3) 鶴岡地域審議会の提言（案）について
- 4 その他
- 5 閉 会

1 開 会 （午前9時30分） （進行 三浦裕美地域活性化推進室係長）

2 あいさつ

早坂剛会長

皆さん、こんにちは。お寒いところお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。今、司会から申し上げましたように、この日も4回目を迎えております。これも最後のほうにまいっております、今日は取りまとめをしたいと思っておりますので、どうぞ最後まで慎重なるご審議よろしくお願ひ申し上げて、簡単ですけども、挨拶に代えさせていただきますと思います。よろしくお願ひいたします。

秋野友樹企画部長

おはようございます。本日は委員の皆様には大変ご多用のところ、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日の鶴岡地域審議会の協議でございますが、鶴岡市総合計画実施計画につきましては、毎年度ローリングをしながら、具体的な施策について進めており、12月下旬に総合計画審議会でご審議を頂く前に、各地域審議会でご意見を頂戴しながら案を整理していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。鶴岡市国土利用計画につきましては、合併後の本市の新たな計画として、今年度内の策定を目標とし、検討を進めておるところでございます。土地利用について多くの市民の皆様からご意見をいただき、より良い計画とするために、皆様に計画案の概要をご報告させていただきながら、ご意見をいただきたいと考えております。それから、鶴岡地域審議会は、昨年度から協議テーマを設定して、地域づくりに向けた具体的な取組みについて、地域コミュニティと産業経済の二つの分科会を設けて、協議を頂いておるところでございます。委員の皆様には、真摯にご協議を重ねていただいておりますこと誠にありがとうございます。これまで頂戴いたしましたご意見、ご提言につきましては、提言書といたしまして、この12月に会長より市長へ提出をしていただく予定にしております。本日は、これまでの協議内容を、提言書として纏めましたので、皆様からご意見を頂戴したいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3 協 議 （議長 早坂剛会長）

（1）鶴岡市総合計画実施計画の策定について（説明 佐藤豊企画調整課主査）

（2）鶴岡市国土利用計画について（説明 伊藤弘治企画調整課企画専門員）

○ 早坂剛会長 ただ今ご説明いただきました。私からよろしいですか。鶴岡市国土利用計画の15ページに美しい市土の維持保全とあります。審議会でも出ましたが、例えば、古い町並みを維持する、維持していく。今非常に市内においても空洞化になってきており、古い家が保存されず壊されていく状況にあります。ここに歴史的風致の維持向上、史跡文化財の保護など図り、歴史的特性や資源を生かした町づくりを進め、個性ある景観を形成すると書いてありますが、この中に、例えば、大山の酒蔵とか手向の宿坊の街並みとかを保存することも、入れられないでしょうか。鶴岡で言えば、鯉川さんとか三浦屋さんなどの住宅も対象にするようなことを是非入れてもらったらいいかと思うのです。皆さんの考え方でいくと、歴史的風致というのは、文化財にならないと対象にならない感じなのかと思います。そうい

うことからもう一步踏み込んで、鶴岡市独特の街並みを残す施策があってもいいのではないかと思います。

○ **高坂信司企画調整課長** ただ今ご指摘いただいた件について、都市計画サイドでは歴史まちづくり法に基づく整備検討ということで、羽黒の手向地区の景観魅力アップに、具体的にどういう取り組みが出来るか検討も進めております。大山地域や市街地にもとのご指摘もありましたが、民間での動きも大切な動きとして認識をしております。そのような動きも踏まえながら国土利用計画では、市土という限られた空間の中で、どのような土地利用を図っていくのかといった基本的な考え方をまとめていくものですので、具体的なそれぞれの取り組みとして進めつつ、この計画の中にどのように盛り込んでいけばいいのかということは、表現として検討させていただきたいと思います。

○ **早坂剛会長** ぜひよろしく申し上げます。もう一つ、市街地を形成している商店、観光地の温泉などいろいろな所がありますが、非常に商業施設というのは面積が広く、そうすると固定資産税が非常に高いと言いますか掛かります。そのような所に対する保存の意味も兼ねて、もう少し固定資産税の問題、税法の問題も含めて、街並み、大きな大家さんの家もあるかも知れませんが、ひとり暮らしや営業も何もしていないところの中にはあるかと思ますので、税法上の施策的なことも私は入れておかないと、ただ、きれいな町、きれいな何とか、きれいな自然とかばかり言っても、全部行政が守ってくれるのなら別ですが、皆個人の家を自分達で守っています。今守れないような状況になってきているところもあるわけですから、税法上の問題を施策として応援していきたいということも入れていかないと、ただ絵に描いた餅になっていくような感じがします。ぜひ一つご検討いただければと思います。

○ **高坂信司企画調整課長** 前のご発言と関連として、手法としての固定資産税等の税制措置により、景観形成美しい市土形成につながるものという主旨のご意見かと思ます。景観形成等あるいは歴史的な街並みを進めていく一つの手法として、そのような考え方もあるかと思ます。それについては、前提にある税の公平性の中で、どういった形での支援、街並み形成に貢献する手法が取れるかということは、ご提言いただいたことも含めて原課にお伝えしつつ検討を進めていくことになるかと思ます。なお、国土利用計画の中での盛り込みということでは、国土利用計画の内容、構成のスタイルとのバランスの中で記載できる範囲がどの程度かということを検討させていただければと思います。

○ **早坂剛会長** 地方の独自性があると思ます。今日今野組合長さんもいらっしゃいますが、例えば、棚田なども一つの景観として、他ではとても立派な景観の観光的な施設として捉えているところもありますので、この辺にもいろいろと沢山あると思ますから、家並みもですが、森林はもちろん、棚田も含めて是非ひとつ考えていただきたいと思ますので、よろしく願いいたします。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 市国土利用計画素案については、大変立派な計画でよかったと思ます。この計画に基づいての一番大事なことは、国土の調査が第一前提ではないかと考えます。鶴岡市の総面積は先ほど明示されましたが、総面積で13万1千ヘクタール、その中

に農地は1割4分、山林は7割2分程、他に宅地、道路など含んでいますが、この面積については5千5百ヘクタールが明示されています。この大鶴岡市の森林文化都市、自然とともに生きるといった非常に立派な名目ですが、基本となる土地の台帳についてどうなっているのか。他の旧町村の場合は、羽黒、朝日、櫛引等、現在温海では調査中と伺っておりますが、肝心の鶴岡市においては、このような調査の計画性がまだ済んでいないと聞いております。この市の相当の面積に対して何を計画するにしても、基礎となる台帳がきちんとしていないと進まないと思います。調査することにより面積の1割ないし2割以上の伸びがあります。それについては私有地だと問題はありますが、宅地の場合においては評価額は2割3割上がり抵抗はあるでしょうが、その考えを一応打破しながら、今後、市の国土調査への考えをお伺いしたいと思います。

○ **高坂信司企画調整課長** 基本となる国土調査の重要性についてのご指摘をいただいたものと思います。お話にありました旧市町村の地籍調査の取り組みに関しては、それぞれ進捗の違いがある中で、課題認識はありますが実際調査を進めると、非常に膨大な時間と費用がかかるという課題もあり、旧鶴岡市では調査が進んでいないという実情がございます。ご意見があったことは担当課にお伝えをし検討させていただければと思います。国土利用計画の中では、県でそれぞれの面積については、データとして出されたものをもとに数値を示させていただいております。現状の数値に対して、これからの土地利用の見込み、方向性というところを示めさせていただいております。後ろのほうは補足的な説明ということになりますが、ご意見いただいたことについては原課に伝えてまいりたいと思います。

○ **五十嵐吉右衛門委員** この調査についても相当の年月もかかるでしょうし、費用も掛かります。それについても、年次計画例えば5年ないし10年のような計画で順次的に計画に入れてはどうかと感じはします。

○ **早坂剛会長** 先ほどの鶴岡市総合計画実施計画でも結構でございますから、今の国土利用計画についても、ご意見がございましたらどうぞ。

○ **後藤輝夫委員** 実施計画策定について、2つ質問という形でお願いします。最初に11ページの自然とともに生きる森林文化都市のなかで、1番目の森林の中での子どもの育成ということで、特に保育活動や小学生の森林体験学習、大鳥自然の家を拠点とした環境プログラムとありますが、少子高齢化、人口の減少という実態を踏まえた場合に、計画案としての文言に着目したところは、すばらしいと思いますけれども、実際に実施するあるいは実施したことについての評価というものを一連に捉えた場合、そのイメージとして沸くものが欲しい。やろうとする意欲は感じられるが、保育関係や小学校が今後果たしてこの施設を利用して、学習活動や交流活動が行われるかと考えた場合に、絵に描いた餅に終わらないことを期待したいことが第1点であります。第2点は、16ページの新たなビジネス創出による雇用機会の拡大の中で、付加価値生産や市民の健康長寿への貢献を中心としたバイオ技術の産業化を加速することが仕組みということがありますが、高齢者の立場から、高齢者や老人クラブが直接雇用関係することではなくて、学習機会を捉えて、こうしたものに市の取り組みを理解したい今後とも3年間の計画が実践に移されていくなかで、活用したいという意味にお

いて、もっと具体的にイメージできる文言がよろしいのですが、説明をお願いします。

○ **高坂信司企画調整課長** 2つのご意見いずれも温かい叱咤激励をいただいたと思っておりますが、最初の森の中での子どもの育成は、大鳥自然の家で教育プログラムの提供は既に行われています。森の保育事業では、朝日の大網保育園を活用しながら、実際に子ども達が保育園で自然体験プログラムをスタートしています。そのような取組みをより拡大させていくという主旨の記載です。きちんと進んでいく心がけながら、取組みを進めてまいりたいと考えております。2点目ですが、雇用ということでの健康長寿への貢献と書かせていただきましたが、このバイオ関連で先端研での健康長寿関連の取組みということでは、例えば、がん対策では市民の皆様を対象にした先端的な研究内容を、より分かりやすくご説明するセミナー、シンポジウム等の機会も設けておりますし、研究所の取組みとして致道ライブラリーの中に、がんに関する様々な相談を受け付ける「からだ館」という施設を設けて、相談に応じています。記載はありませんが具体的な取組みが進められております。そういうことを踏まえて、なお、これから実施計画を文言としてまとめていく中で、今ご意見いただいた観点も含めて検討してまいりたいと思います。

○ **早坂剛会長** 後で審議会もコミュニティと観光産業の部門がありますので、提言の中に入れてもよろしいわけですから、ここで意見を述べたいという方がございましたら。

○ **本間孝夫委員** 実施計画の20ページに地域の防災体制の確保・強化とあり、これは3.11の東日本大震災後の非常に皆さん関心があり危機感を持っている内容だと思います。今後の主な計画に、土砂災害ハザードマップ及び津波ハザードマップの作成があります。どこかの資料に、高齢化している地域の中でこういう資料を出す場合に、子どもが見ても分かりやすい、本当に役に立つというものを作っていきたいという事があったと思いますが、市民の皆さんも非常に危機感を持っているし、特に今回想定外という異常な高い津波があり、日本海でもそういう可能性がいろいろ危惧されていますので、是非こういうところを早く、市民が本当に役に立つものを進めていくということ、もう少し分かるような進め方を、是非していただきたいと感じます。それから、6ページに食育及び地産地消の推進とあります。山形県の場合は非常に特産品がいっぱいあります。海、山、平野、美味しい米からお魚がいっぱい取れる地域は、本当に重要な役割だと思います。先日、仕事で秋田市と横手市の大手のスーパーマーケット行きましたが、横手市の大手のスーパーを見た後に、どこのスーパーでも高齢者用の駐車場が店の前にあり、横手市が特化しているのですが、鶴岡では考えられないほどの施設になっていました。それから、どこのスーパーも地域の生産者の農産物が入り口の一番いいところに特設してありました。特産品、秋田では「いぶりがっこ」とか、地域の畜産物の加工業者のコーナーがしっかり取られていました。特徴があったところで、お惣菜や、今の時季鍋物ですが至る所に一人用の鍋物用に水産、畜産、農産が買ってすぐ使えるようにあり不思議に思い帰ってきました。横手市のホームページを見たら、市全体で取組みを強化していると出ていました。これは行政が絡んで進めているから可能なのだと改めて見たのです。横手市の横手のうめ一応援団、食と農チームプラスYというプロジェクトで、市民参加型の地産地消推進制度がありマーケティング推進課があつて、横手市内の8地域の地場特産品の中より、わが町の特産品を選定するプロデュースをして売れる農産品づくり、

何でも相談コーナーの設置を市の中でしています。スーパーマーケットに特化して商品があったというのは、横手市内のショッピングセンター、食品スーパーへのアプローチもマーケティング推進課でやるという制度があって、なるほどと思いました。今日の資料の中に、地産地消の問題、農産加工品のもっと進めていくという取り組みの説明もあります。是非具体的なやり方で、鶴岡の特産品をもっともっと薦めるのだということが、もう少し見えるようになっていただくと理解が出来るのではないかと感じました。

○ **高坂信司企画調整課長** 1点目の防災の関連で津波ハザードマップを中心にご意見をいただいたと思いますが、東日本大震災により津波の被害の大きさ怖さを改めて認識をし、従来日本海側では大きい津波が来ないのではないかと想定をされていましたが、災害の備えとして津波が来るという前提で、どういう防災対策を整えればいいのかということを改めて検討しなければいけない重要な課題認識を持っております。今、県でハザードマップの作成に向けた調査を行っており、市もそれと連携しながら出来るだけ早急にハザードマップ作成、新たな震度想定に基づく検討を進めようとしているところです。重要な問題意識としてこちらも共有していることで進めていることでご理解いただければと思います。

○ **本間孝夫委員** それは出来上がったら、市民配布するという計画もありますか。

○ **高坂信司企画調整課長** 周知方法については、まだ決まっていないと思いますが、いざ津波が起きた時に、きちんと、どうすればよいのかということが分かっていることを前提とした形で、皆さんにご理解いただける周知方法を取らせていただくことだと思います。2点目の横手の先進的な取り組みは、原課にそのような取り組みがあるということをお伝えしつつ、いろいろ勉強をさせていただきたいと思いますが、市としてもいろいろな取り組みを進めております。農協さんも含め、単に農業ということだけでなく、今、6次産業化という観点も非常に大事になっておりますので、鶴岡市としては農商工観連携という形で連携組織を作りながら取り組みを進めておりますし、食育、地産地消ということでは、従来から協議会組織を設けて、横断的ネットワークを活かした取り組みを進めているところでありますので、なお一層先進的な取り組みの中から学ぶところもあると思います。よりよい取り組みになるように、それぞれのところで進めていくように取り組んでまいりたいと思います。

○ **早坂剛会長** 最後に4ページの施策の展開方向の重点方針の大きい2番の3番、新たなエネルギー対策の推進、電力供給不足への対応と再生可能なエネルギーの促進と書いてありますが、具体的にはどういうことを考えていますか。

○ **高坂信司企画調整課長** 17ページ18ページで取り組みの基本的な考え方を示しています。今回の震災で夏場の電力需要が逼迫する中で、市民の皆さん事業活動を行っている皆さん、非常にご苦労をされたということがございまして、一層の省エネ対策を進めていくことが必要だという問題意識のもとに18ページに施策を上げています。一方で、具体的にエネルギーの供給あるいは確保をどのように進めていくのか。鶴岡市は従来エネルギーという観点での基本的な考え方、いわゆるビジョンが策定されていない状況もあり、現在、国、県でエネルギーのこれからの施策に関する検討も行われておりますので、動向を踏まえながら

市としてのエネルギービジョンを策定することと併せて、具体的にエネルギーを確保していく取り組みを進めていきたいということで、一つには森林文化都市で進めています、木質バイオマス、森林資源を活用したエネルギー活用の展開を図ってまいりたい。その他の再生可能エネルギーでは、例えば小規模水力については、鶴岡高専さんで独自の技術もお持ちになっている。そのような事業の可能性を探っていくことに協力をしてまいりたいと思っておりますが、大きい電力はなかなか確保しづらいということもあると思っておりますので、再生可能エネルギーとして、大きな電力確保が出来るように、まだ、具体的には詰まっておりますが、国の再生可能エネルギーの買取法が来年7月から施行されますが、具体的に買い取り価格、量への制約条件などの情報収集をしながら、まずこの地域の中で、こういったところに着目をして進めていけばいいかということ、引き続き調査研究、検討をしながら、具体的に見えることも非常に大切な取り組みとして進めてまいりたいと考えております。

○ **早坂剛会長** この資料について、東北電力の山形県の電力消費量と供給量はどの位かということは全部出ていて、我々も今具体的に運動しているところです。それは、山形県で一企業で使う量が多い企業が2つ庄内にあり、具体的には電力が40万キロぐらい足りず、県内では自給が出来ずに新潟県と秋田県から供給していただいていることから、エネルギー源は別として、酒田にもう一つ35万キロぐらいの発電所が欲しいという運動をしています。鶴岡市は、企業が困っているのだということと、企業が海外に行くとなれば雇用の問題、働く場、働く人達が非常に大変なことになるので、この問題を、せつかく書いてあるのに、具体的なところでバイオマスとか高専さんの発電とかありますが、賄いきれる規模ものではないと思うので、もっと事情や現状を調べて、庄内一円になって運動するなどをしていかないと、県もなかなか動いてくれないので、この中で取り上げていただきたいと思っております。

○ **高坂信司企画調整課長** 非常に重要な観点だと思っております。国を中心にきちんとした施策のもとにエネルギー確保が図られるということが基本だと思っております。電力事業者の取り組みを進めていただくとか、動きが喚起されるように、庄内地域でエネルギー需要、供給が必要であるという要望活動を、例えば、庄内開発協議会の要望という形で実現させたり、主要な活動は取り組むように働きかける形にしてまいりたいと思っております。一方で、実施計画は具体的にこの市の取り組みとして記載する部分というのが中心になります。今のご意見を踏まえて、今どのように困っている状況にあるのかといった現状を踏まえつつ、主要な要望活動等については、取り組みを進めてまいりたいと考えております。

○ **早坂剛会長** よろしくお願ひします。他にご質問なければ時間も少しオーバーしたので、企画の1番2番の問題につきましては、ここで閉じさせていただきます。企画の皆さんはここでご退席となります。どうもありがとうございました。それでは、引き続き3番目の鶴岡審議会の提言案について、これから審議させていただきます。まず、お手元に案がありますので説明をお願いします。

(3) 鶴岡地域審議会の提言案について (説明 吉住光正地域活性化推進室長)

○ **早坂剛会長** 分科会長、補足することありましたら、どうぞお願いします。

○ **今野毅分科会長** 鶴岡駅において交流人口を増やすことが、経済の活性化という点で大きなテーマになったことは今の報告のとおりです。観光への対応も含めて、どう高めていくかという話がいろいろ出ました。城下町鶴岡ということで、どういうところを我々は進めたり、また、観光パンフレットで説明したり、パンフレットを作ったり、PRが下手だという話も出ましたが、観光の拠点としての部分あるいは理念みたいなものが、もう少し強く押し出していく必要があるのではないかとということが、基本的な今後の考え方にあります。平城でしたが鶴ヶ岡城という城址は堀や面影はあるが、早坂会長から当初お話があったように、市民の運動を醸成しながら、御角櫓みたいなもの、拠点となるもの、あるいは真新しきものなどの建設に向けた、市民運動の醸成も必要なのではないかなどが出されました。いずれにしても、先ほどナビゲーターという新しい文言も出ましたが、市民が一体となり観光というものに取り組んでいくことが大事なのではないか。そのためのネットワークづくり、組織づくりということも含めて話しになったと思っております。私の立場からすると食文化も当然大事な観光資源になりますので、在来野菜などを含めた食文化、飲食業等への取り組みもちろん必要であるということで、このような観光資源を貴重なものとして活かし、そして新しいものも情報発信していく。市民総ぐるみの観光立国ならぬ観光の市にしていければということでの提言、総括がされたのではないかと思っておりますので報告申し上げます。

○ **早坂剛会長** ありがとうございます。全体的に皆さんからご意見を伺いたいと思えます。今野さんの話を伺って食文化がなかったので入れたほうがいい感じがします。

○ **本間孝夫委員** 鶴岡らしさの創出として、いろいろ出ていますが、主に現状の鶴岡のよさを伝えるという内容の感じがします。この間の銀座の鍋大会、寒だら、天神まつりも含めたお祭りなど、人を集約できるものが鶴岡に沢山あるので、もっと盛り上げていく施策が組み入れられないのかと感じました。鶴岡には美味しいものがいっぱいあるので、例えば、鶴岡市全体でB-1グルメのようなものを思い切って出していく。B-1でグランプリを取った街は一気に観光が伸びるとかあります。この間行った横手などは、スーパーマーケットの焼きそばのスペースがもの凄くありました。継続して利用する人が増えているとことだと思えます。食の分野やいろいろな鶴岡の名物を取り入れたものを、どう観光と結びつけていくかというのが、もう少し具体的に取り入れられてもいいのかという気がしました。

○ **早坂剛会長** ありがとうございます。非常に貴重なお話でした。是非なんとか入れるように。

○ **今野毅分科会長** 今会長から入れるようにと最後に一言あったことが全てですが、この中に足りないのは、資源としての「らしさ」という言葉だけで、食文化を含め様々なスキルの高い料理人や腕なども含めて、観光の資源としての整理のされ方が少し足りない部分があるのではと思いました。その辺も若干取りまとめながら、ここに入れたら、そういうものに活かす方法、先ほど観光ナビゲーターという新しい言葉が出たように、あるいは、カリスマ観光という話も出ましたので、ものを、どう、誰がどう活かすかという起承転結があったほ

うがいいのではないかと思います。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 産業経済分科会でこういう話し合いを何回もしましたが、最終的に誰がどこでするのかというのが、特にこの観光について一応問題視されて議論したわけです。いろいろ農林関係においても役所にはありますが、連携は一本だけにした観光、あるいは農林水産業を一括したものを全国に発信するためには、誰がどこでやるのか。その辺をどのように考えておりますか。

○ **早坂剛会長** 企画部長どうですか。

○ **秋野友樹企画部長** 横の連携、食文化の関係につきまして、先ほど実施計画でもお話しさせていただきましたが、創造都市ネットワークに加盟をして世界的に発信していこうという取り組みを現在しております。今日は市長が韓国に行って創造都市ネットワークの円卓会議に出席しております。2月には本申請という形で進めたいと思っておりますし、その中で農商工観連携の協議会がありますので、ベースにしながらか発信などをやっていきたいと思っております。ただ、役所の中の縦割り、横の連絡、連携については、我々も大きな課題です。ひとつの課で完結しない場合は、企画部で横の繋がりをということで、現在、食文化やシルクの関係を担当していますが、どのように繋げていくかは大きな課題です。是非そこを実現しながらやっていきたいと思っております。先ほど、観光の提言の中にホスピタリティとありましたが、役所周辺で、家族連れ、グループの方が散策をしております。残念ながら、今、役所の職員が、そういう方に声をかけて、いろいろナビゲートするということをしていないので、ひとつの手立てとして出来るのではないかと考えています。信金の職員の方が誘客した方への観光ガイドをした話も伺っていますので、参考にしながら取り組めるのではないのかと、今お話を聞きながら思ったところがございます。

○ **早坂剛会長** 観光物産課をもう少し充実できないでしょうか。観光で食文化のことなどもまとめるとか、会議所が主体となる場合もありますので、観光物産課と連携しながらという場合もあると思います。鹿児島に行きますと鶴岡市と提携ということもあつたかも知れませんが、職員の人が我々を迎えてくれるにあたって、とってもよくおもてなしが出来ていたと感じました。国内の対応と国外から来る人への対応する人達が何人かいました。鶴岡市もちろんしていると思いますが、この間の江戸川から大勢来た時の対応は、どこが担当しますか。

○ **秋野友樹企画部長** 国内関係の友好都市が結ばれているところは総務で担当します。海外は企画の国際室で担当しております。会長さんからお話あつたところも、少し踏まえながら、市の中でも横の連携を取りながら進められるようにしたいと思います。

○ **早坂剛会長** 市役所で対応する部署の整理をしていただいて。農商工観という新しい分野の取りまとめはどこでやっていますか。

○ **秋野友樹企画部長** 企画部の政策推進課です。

○ **早坂剛会長** 関連するところが観光物産課には沢山ありますので、まとまったら観光物産課に渡すなどして、広げていくように整理をしていったらどうでしょうか。よろしくお願ひしたいと思います。話を戻しますが食文化の件を入れましょう。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 産業経済分科会では横の連携が大事だということでしたが、誰がどう進めるのかという具体のものが難しかったところです。今野分科会長が言ったとおり、食文化の課題は整理すれば、これから市がしていかなければならない施策でございますが、今回の鶴岡地域審議会の提言としては、どのように誰が進めるのかということ、ある程度明確な形で提言しないと、単に鶴岡市の施策の羅列になります。事務局で整理をして書くだけでなく、なお議論をしていただければと思っております。

○ **今野毅分科会長** 例えば、観光ナビゲーターという文言が出ているところを取っても、養成講座なのか資格制度のどういうものなのか、または、そういうものをつくり出すということが提言として、どこでどうするかは分かりませんが、あるいは観光の拠点としてマリカ東館の空いている建物を使えるようにという話も出ました。各企業の中で、鶴岡の観光のセクションした部分の所で、スポット、人、食、同じようなリンクを企業のホームページに貼るように誘導するなど、いろいろ具体例からすると、すぐ取り組めることはあると思います。出きることは今すぐしましよと話しをしたわけです。それはネットワークであったり、マナーの育成、市民のホスピタリティなどは直ぐに出来ることではないのか。あるいは直ぐにしなければならないことではないかという具体例の話をしたので、羅列する施策と施策にどう提言という部分の識別が分かりづらいです。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 話明の仕方が悪く申し訳ございません。具体的な提言として記載していますので、ナビゲーターや企業の活動関係は、具体的な施策として市が取り組むことで反映していきたいと思っています。食文化の関係では、地域審議会として、食文化をこれから施策として進めていく上で、市ではこういうことをしていったらいいのではないかという、具体的なところを出していただければ提言が出来ると思し上げたかったのです。

○ **今野毅分科会長** 市長も韓国に行くと言っていました、食文化創造都市に取り組んでいる政策推進課と、同じような問題意識の中で提言をしたらどうなるのか。提言としては、そんなに違わないと思いますので、それを強く、我々市民も一体となって推していく。そこにはいろいろなことがあると思ひます。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 市でやっている食文化あるいは食文化を活用した事業、食文化都市を強力に推し進めていただきたいという主旨であれば、提言に書き込めます。

○ **今野毅分科会長** 例えば在来野菜の保護、保持、生産拡大など様々です。昨日も市長との懇談会がありましたが、豊かなこの自然を利用した学校給食あるいは市民農園などへの取り組みなど、いろいろなことを推進するというのが提言なのかどうか分かりませんが、具体的なものなど考えればいろいろあると思ひます。あとは、飲食業さんも含めた様々なネットワークがどうなのか。そういうものへの更なる強いネットワークづくり、メッセージの発信

性などいろいろなことがあるのではないかと、私のイメージの中にはあります。

○ **早坂剛会長** 今のことに関連して、総合計画実施計画の中で、1番にユネスコ食文化創造都市があります。今、担当は企画ですか。こういうのは一人歩きというわけではないのですが、今走っていることに肉付けするために、具体的にはどうするのかということ而降ろしてもらえれば、今度そういうところに提言が出来るわけです。1本化していくことが大事なのではないかと思います。単独で今の食文化のことを考えるだけではなく、せっかく鶴岡市がユネスコ食文化創造都市というのを目指すと言って出しています。これを肉付けするために我々が食文化をどう結び付けていくのか。関連付けていくのか。どのように骨太にするのかということ、もう少し情報を降ろしてもらったほうが本当はいいのです。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** これまでの2年間テーマを決めて、昨年4回、今年4回の中での議論をまとめ、どう提言していくかということです。今回、総合計画実施計画を皆さんにお示した中で、こういうことが追加できないかというのは出てくるとは思いますが、会長さんがおっしゃるとおり、もっと具体的に事務局から情報提供をして意見を聞き、どう提言していくかということ、詰めないで、食文化都市の話全部地域審議会でも説明して、具体的な提言とするには、今日1回でまとめるには難しい感じがしますので、全体的な概要に、食文化についても強力に進めるということでの提言になると思います。

○ **秋野友樹企画部長** 改めて食文化の議論となりますと、大変な時間がかかりますので、テーマ2の市民参加による観光文化都市の推進のなかに食文化を位置づけるということで、文言の中に加えるという形でよろしいですか。

○ **今野毅分科会長** 先ほど言ったように、提言というものの具体性について、私はその域は出ないのではないかと、思って話をしていたのです。あえて例えばということで、在来野菜の話をしたので、それを強く観光の柱として一つに据えて、強い推進力を持ってやりましょうということになるのかと思います。今、部長さんが言われたことでいいと思います。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 提言の趣旨に書かせていただきます。

○ **今野毅分科会長** あとは食文化創造推進協議会で話をすることでしょう。その説明を我々は聞いていませんので。

○ **早坂剛会長** ユネスコでやっていこうという主旨を、会議所やいろいろなところに具体的にどうやるのかとか、もう少し情報を降ろしていったほうがいいと思います。今、どこでその議論しているのですか。

○ **秋野友樹企画部長** この間、農商工観連携の協議会の後に食文化創造都市の推進委員会をつくり、その中で具体的に進めていくとお話をさせていただいたところです。ある意味少し走りながら手立てを加えながら、少し情報発信的な部分が入っていない気もしますが、出来るだけ早くしたいということもあり、そのような形で進めさせていただいています。よみ

がえりのレシピの映画祭も今やっていますが、この事業の一環として位置づけております。

○ **今野毅分科会長** 映画祭の話が出ましたので、私は試写会で観ましたが、今、まちキネで12日から渡部監督のよみがえりのレシピをしています。私の先入観かも知れませんが、いろいろしていることが普通の市民はあまり分からないのではと思いました。ドキュメンタリーでいい作品ですが、12日から2週間ぐらいの上映でしょうか。啓蒙とは少し違うかも知れませんが、食文化の一環としてですから、会長が言われる食文化創造都市にユネスコ。広報か何かで見る機会はあるにしても、一丸となつての盛り上がりがないような気がします。この前ある講演会で五十嵐寅吉委員も一緒でしたが、櫛引の佐久間さんの話を聞く機会があり、俳優の方はこの庄内をどのように評価していたかと聞いたところ、何を食べてもこんなに美味しいところは日本にはないと言うのが第一声で、2000メートル級の山が北と東にあり、そこから出る水はまさに滝のごとく清流が流れて、それが注ぎ込む日本海の魚介類は最高だと言ってたそうです。その中には本当に有名な方々が沢山います。奥田シェフさんの料理を市民みなが食べたこともないでしょうから、形だけでなく本当の意味での、食文化創造都市を市民運動的に盛り上げるという意味合いも含めて、私はそれ以上の提言はないのではないかと言ったのです。ユネスコ登録を目指しているわけですから、遅きにした感はまだまだないと思いますので、市の担当部局にもお伝え願えればありがたいと思います。

○ **秋野友樹企画部長** 大変ありがとうございました。私どももその辺が少し弱いかなという気持ちもございます。一月の広報に新春会談として特集を組むことにしております。今お話になったことを踏まえまして情報発信をしていき、そして、市民一体となって取り組めるように進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○ **早坂剛会長** その辺を是非ひとつ、提言の中に入れていただければいいのではないのでしょうか。よろしくお願いします。

○ **荘司正明委員** 前にも言いましたが、この提言を実際に推進していく組織として、既成の組織ではどうしても規制等があつて、非常に難しいのではないかと思います。観光、農業、商工業、林業、水産業を含めた新しい組織を作り上げ、全国に発信していくような組織がひとつあつてもいいのではないのかと思います。提言は提言として大事なものは、どうやって実践していくのかということで、特に全国数千もある地方自治体がしのぎを削って誘客に努め、今スピード感求められている中で、実際にどうやって推進していくかということが一番重要なことではないのかと思います、この提言の行く末がどうなるのか非常に心配していました。

○ **佐藤正廣委員** 今までの3回のことが良くまとまっているとは思いました。提言の中でポツポツ抜けているところは、見ると実施計画にも載っている部分で割愛していると考えていいと思ったのが1点。それから、本間委員からB-1グランプリの話がありましたので、今庄内シルク焼きそばがB-1を目指して頑張っていて、出羽商工会、中小企業の会の有志で、今回岡山で開催されたB-1にも視察に行つてましたし、山形市内でやった山形B-1のようなところにも出店していましたのでご紹介します。私は個人的に応援しています。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 私はその都度その都度発言をさせていただきましたが、産業経済分科会では主に観光を集中にしながら、他の産業も観光に付随している関係でやむを得ませんが、林業農業関係も全部入っていくので、その辺も強調してもいいのではないかと感じました。

○ **竹内峰子委員** 私はコミュニティでしたが、今深刻になっているのは高齢者と少子化の中で、民生委員の立場からですが、昨日も研修会があり、これだけ必要とされている中で民生委員のなり手がいない。ともすると長期にわたって欠員のところが目についてきたとか、地域の方々からは本当に民生委員さんが必要だということを、いろんな方から出されても、大変だという言葉が走っている中で、今担い手がいないということ言えば、ここでも書かれているとおり、民生委員だけでなく、地域の活動や全てのあらゆる部分において、地域の担い手が今いないのかということで、もう少し、若い時から地域参加を促しながら人材発掘をしていかないと、ここに団塊の世代と出ていましたが、60歳を過ぎて一段落してからは遅いのではないかとということが少し気になりました。

○ **阿部和博委員** 実施計画にも載っていましたが、事業所の協力がないと消防団活動は出来ない状況になっています。提言にも各団体のリーダーの育成、学習、研修の場と載っております。当然、どの時間帯でするかでも違いますが、例えば、仕事を休んで参加しなければならないとなった場合、各事業所、企業の協力というものは、絶対なければならないわけです。消防団の場合も、消防団協力事業所表示制度等もありますが、そういった企業との連携という部分での、防災というところでの文言をもう少し入れていただくとありがたいです。消防団の事業と重なって2回目3回目を欠席し、協議に出られませんでしたと感じたところです。

○ **後藤輝夫委員** 委員が自分の言葉で語ったものが、きれいな文章にまとめられたと感じましたし、それだけに相当苦勞されたと拝察いたしました。ところが、この提言を受けるのは一体誰なのかという立場で読んでみると、受け手がこれを具体的に企画し推進することがなければ、年間4回、何年やっても絵に描いた餅になることを危惧しました。例えば、パンフレットにしても、総合的に分厚いものにするよりも、季節的な食のイベントで一枚。鶴岡を訪ねて神社仏閣に精神的なものを求めてくる人のための一枚といったような、機能別に作られてもいいのではないかと。あるいは、5円増しのような葉書で一面の半分に鶴岡においてよとか、美味しいものがある鶴岡だよとか書いてあるものを、市民が買って発信するようなことをやったらいいのではないかと思います。本間委員から横手の話が出ましたが、私も平泉に行った帰りに横手に寄りましたが、平泉は世界遺産の関係なのかも凄く活気づいて、雨が降ろうが何であろうが観光客を快く迎える。ところが、山を越えた横手は単に受け入れるという感じがしました。鶴岡も全市を上げてやっているのだと、この提言を本当に誰が受けて誰がこれを取り組んでいくのか。活力を出すような町づくりに活かせることを期待するわけです。前回、鶴岡市民の交通マナーが悪いという話があり、安協さんが安全運動の期間に警察とタイヤアップするだけでなく、せめて町の信号機のあるところで、信号無視した人を見つけたら指導したり改善していくことがないと、車で来る人が怖くて来られないと思ってしまう。信号が赤になってから3台くらい通過する鶴岡の状況を直さないでだめです。

○ **早坂剛会長** 提言を受けた後のことが大事になってくると思いますので、是非市長さんに渡す時に強くお願いしたいと思います。

○ **本間孝夫委員** 審議会に出していただいたのは、森の産直カーと一緒に回った経験から買い物に困る人がかなりいると実感したからです。その後、大震災が起き本来の目的から防災が中心となりましたが、今日の提言の中にも高齢者へ支援というテーマがしっかり書かれていますが、この森の産直カー、海の産直カーの取り組みを活用した買い物が困難になる人たちへの支援を検討のことという文書になっています。具体的な支援の仕方として、森の産直カー、海の産直カーが事業と見てしまえば、行政として協力するのは難しいのかも知れませんが、高齢者支援という立場から、森の産直カー、海の産直カーというところで本当に買い物に困っている人達の役に立っていけるのかということです。どこで売り場を作っていくか、車があのでいいのか、雨が降ったら今の状態では買い物に来て不便をきたすとかという問題が、いっぱいこの中に隠されています。その辺の問題をどう整理して、本当に検討するというのであれば、もう少し具体的な内容がないと、市長に提案するにしても、この文章だけで終わってしまうのではないかと感じました。この資料を頂いてから、先ほど荘司委員がおっしゃられていましたが、どう整理されて、この提案の内容を具体的に実践していく。これからの内容として出していけるのかが気になったところです。

○ **高山利幸委員** 自分達の世代は、これスマートフォンと言いますが、何か調べたい時にここに入れて調べます。これがそのままナビゲーション、案内もしてくれます。例えば、観光に来た場合、食べる場所、観光はどこに行ったらいいか、交通手段はどうかということも、とりあえずここで調べようと思います。これをうまくネットの世界を利用するというのも、ひとつの案ではないかと思ひ、この中には出ていなかったのでお話ししました。

○ **早坂剛会長** 事務局、是非ひとつよろしくお願いします。

○ **五十嵐松治委員** 今まで参考になることが沢山、委員の方々の発言にありました。その中で、防災意識や高齢者福祉の問題については、横の連携や座談会の開催、様々なリーダーの育成などが多分にあり、そういうことが要領よくまとめられたと感じていますが、このことは、本当に今まで何度も何度も研修会等で話されてきたことです。リーダーの研修や座談会などで、場づくりとかまでは何度も行われてきましたが、個々の人達に行き渡っていないということが、私は一番気にかかりました。私が実際に民生委員していた時に感じたことは、一番その影響を受ける方々にその意識が伝わっていかない。町内でも広報活動などいろいろする中で、例えば、町をきれいにしましょうという運動で広報車を回しても、私の組での参加は私1人でした。以前に防災の講習会を開いた時は、個々の家にみなチラシを配布し期待して待っていましたが、1000人ぐらいの町で参加が30人。構成員を見ると皆役員をしている人でした。本当に必要な方々への意識の育成や、伝えていく手立てが非常に分からず、常日頃どうしたらいいのか考えても、いい考えが浮かばないままに今日に至っております。いい提言をしても、それを計画し実際に実施をする段階で、どのようにして個々の人達に行き渡り、周知されるかということが非常に大きな問題だといつも感じております。民生委員にしても、私のほうは一人欠員になっており、欠員のところの高齢者の中から、私達は見捨

てられたという言葉聞いた時に、こういう思いを持って生きているのだと感じました。今までは民生委員に相談すればよかったのが、誰に相談すればいいのか。こういう冬の時期等を迎えますと様々なことが頭をよぎります。除雪の問題は最たるものですが、いろいろなことを相談する人が役割としていないということで、見捨てられたというような表現をした方がおられましたことをお伝えして、私の意見といたします。

○ **茅野進委員** 福祉の立場として、健康福祉都市宣言もあり福祉でまちづくりという基本がありますから、高齢者のニーズに対応することでは本当によくまとめていただきました。防災と福祉が一体化という考え方がはっきりと出たことと、支える福祉協力員制度の名前が出たというのは大変有難く、今後の福祉のまちづくりに対する大きな柱立てが生まれたと感謝申し上げます。ただ一つ、これは非常に難しい問題ですが、学区社協で個人情報保護問題について研修予定です。これが解決しない限り、各種団体、町内会、民生児童委員、それから福祉協力員等と話し合っても、いつも出てくるのが個人情報です。どう取り上げ施策の中に入れるのかは難しいと思いますが、まちの中のコミュニケーション、話題、会話の仕方を大事にしていこう。例えば、隣組単位の連携を図りましょうと言いながらも、お互いコミュニケーション、会話をしていくという鶴岡市民の昔のおだがいさま、もっけだの、そういうソフト面の育成を大事にしていきたいということを申し上げて終わらせてください。

○ **五十嵐寅吉委員** 今回の提言案は素晴らしいと思います。我々コミュニティの部会では、これ以上のことはないと思います。提言は市長にしますが、それを市長さんから実行を具体的に踏み込んでやっていただきたいということだけでございます。

○ **山田登分科会長** 提言としては大変よくまとまっていますが、これを実行するには、なお課題があるのでないかというご発言もあったかと思えます。手を抜かないで、鶴岡市民が一生懸命やっていくという気風を盛り上げていくことが大事だと思います。若い時に米沢に行ってお店屋さんに入った時、食堂に行って注文した時「おしょうしな」と言われました。聞きなれない言葉で、家に帰ってから米沢で「おしょうしな」と何度とも言われたことを話したら、「ありがとうございます」という言葉だと分かりました。米沢の人達は、かなり前から特に、地元でないお客さんが来た場合は、そういう言葉を使って歓迎をするという気風があったのかと思えますし、また、その言葉だけでなく、観光の街にしていくということで、いろいろな施策を市民が団結して今に至っているのではないかと、大河ドラマなども、市民の団結力によって、そういったものが培われてきているのではないかと、そういう力は、鶴岡市民にも十分力はあるのではないかと、鶴岡は素晴らしいところであるということ胸を張って、世界に発信していけるような気風を皆で培っていくことによって、鶴岡市は発展していくのではないかと。市長さんからも時々そういう意味で、我々は激励されているような感じがしますので、ひとつ自信を持って鶴岡を世界に発信していく。鶴岡にはいいところがありPRをすることが大事なのではないかと、話しを聞き感じたところです。

○ **今野毅分科会長** 後藤委員が言われた、このことを誰がするのかということが、非常に印象に残った会議だったと思います。我々は話をすることが多いのですが、これからの鶴岡をつくるのは、若い人達、次世代であろうと思うと、一部にありましたがマナーのこと、あ

るいは新しい鶴岡を創造する。食文化の様々なこと。防災もですが、実際にやるのは若い人達であろうと思います。そういうことに対して、実施計画にも様々書いてありましたが、我々はどうに関連付けていくかということ、先ほど高山さんからあったスマートフォンを含めた、次世代の人達の鶴岡というものに、もっと取り組んで掘り下げていく必要があると思ったところです。皆さんから、いろいろな意見を聞いたことは、いい機会だったと思います。農業分野は地域の地場産業だということは、前市長の時からずっと私自信言われてきましたし、早坂会長もいろいろな食材を作ったサービスなどを展開しておりますので、皆さんもその辺も含めて、住みやすい、美味しい地域だということ、是非ご認識いただきながら、いい町につくっていければと思っております。若い人、次世代の人を視野に入れた施策をひとつお願いしたいと思っております。

○ **早坂剛会長** 最後に本当にこの4回、昨年から入れたら何回になるのでしょうか。真剣なまた地域に合ったことが、皆さんのご意見として組み上げられたと思います。これからプランとして出来たものを今度どのように行動していくのか。どうやってチェックするのかということが問われていると思いますので、今日の皆さんのお話を市にも提言してまいります、これからは、我々がチェックをして、継続されることが大事だと思っておりますので、これからは皆さんの引き続きご協力のほど、よろしく願い申し上げて、何とかここまで来ましたので、本当に感謝申し上げて終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 昨年度4回今年度4回の8回、真摯に議論を重ねていただき提言という形となりました。本当にありがとうございました。今回、鶴岡地域審議会また他の地域審議会も、テーマを決めて議論することでスタートしましたが、皆さんが思うような形で進められなかったのではと反省しております。提言の中には、発言が載ってあるもの、そのまま載っていないものが多分にあると思います。事務局としては要望的なものを単に提言書に記載することはどうかという思いもあり、ある程度、市の担当とも話をしながらの記載としました。皆様方の意見は、それぞれの関係部署に事務局で責任をもってお伝えすることにしていきます。その中で、今回提言書に記載した内容について、どう実現するのかということについてのご心配なりご意見が多々ございましたが、市長からも最大限配慮し施策に取り入れていくということで指示を受けております。12月15日に会長から市長に提言書として提出していただきます。事務局では提言書について、関係各課に周知、提言内容をお伝えしたいと思います。提言内容を受けて、現在の事業にすぐ反映できるもの、来年度の事業として取り入れるもの、25年度以降の事業もあるかも知れません。さらに、もう少し具体的な内容が必要でないかという意見もございましたが、課題によっては相当検討した上で施策として反映しなければならないこともあります。事務局で整理させていただいて、なお、この地域審議会にもご報告をさせていただきたいと思っておりますので、是非ご理解をお願いいたします。本当に2年間いろいろとご議論いただき、ご意見頂戴いたしたことありがとうございました。今日のご意見ですが、特に食文化については、もう少し書き加えるようにとのことでしたので、事務局で整理をし、会長さんと分科会長さんにお見せしてご了解いただくことで、最終の提言書とさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございました。

4 その他 なし

5 閉 会 (午後0時15分) (三浦裕美地域活性化推進室係長)